大学院生シンポジウムGS01

百聞は一見にしかず　—分子イメージング研究の新展開—

Seeing Is Believing —New Perspective of Molecular Imaging Research—

東川　桂[1]，近藤　直哉[2]

[1]岡山大院医歯薬，[2]京大院薬

分子イメージングは生体内分子の空間的・時間的な分布情報を非侵襲的に画像化する手法である。分子イメージングにより、標的分子の状態は「見える」情報としてもたらされ、様々な評価が可能となるため、基礎研究にとどまらず、病因解明や、臨床画像診断、薬効評価、創薬研究など、医薬分野への貢献が期待される。分子イメージング研究はイメージング機器の開発等を含め様々な領域からなる融合分野であるが、分子イメージングによる標的の詳細な評価を可能にするためには、対象となるバイオマーカーを認識する優れた分子プローブの開発研究が不可欠である。したがって、分子イメージングにおける、医学・薬学領域の研究者が担う役割は非常に大きい。

本シンポジウムでは、最新の分子イメージングプローブの開発研究に焦点を当て、分子プローブの開発を通じた新規診断手法の開発や生命現象の解明を目指し、日々研究に取り組む大学院生７名が講演を行う。講演者は、自身が推進している分子イメージングプローブの開発とその応用について発表する。本シンポジウムを通じて、様々な領域を専門とする研究者が集い、講演者と参加者が積極的に意見を交わすことで、若手研究者の人的交流、さらには当該研究分野の発展のきっかけとなることを期待したい。